

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 20日

所属・職名	政策情報学部 教授	氏名	平原 隆史
研究課題	人口減少構造下での空き地対策とその波及効果		
研究キーワード	地域政策、定住傾向	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今年度は、空き地対策として行われる各種施策のうち、定住に関わる様々な支援策を元に研究を遂行した。2018年に行った市川市の意識調査の結果のもと、住民の引っ越しの意向と生活の満足度を、定量的に分析を行った。結果、地域への愛着度、満足度が引っ越しを避け、定住に果たす役割は大きい、満足度が高い層が自由な移動能力を有している層であることもある程度証明できた。特に自家用車所有者の定住性向は他の層より高く、免許返納層を除くと、自動車の運転ができない層（ペーパードライバーを含む）は引っ越し希望が高いことが判明した。</p> <p>そのため、交通支援などは必ずしも住民の地域への愛着度の向上に繋がらないこと、併せて、高齢者自動車事故の削減のための別領域の政策が定住にも影響与えることが予見される結果となった。</p> <p>年度末に別地域への調査を企図していたが、COVID-19の影響で調査を断念せざるをえず、市川だけの地域特性かそれを超える一般的な特性かの見極めができなくなったのが悔やまれる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文】 特になし</p> <p>【発表】 「個人の移動能力と定住傾向に関する環境負荷の地域移転の可能性」、環境経済・政策学会2019年大会、2019年9月、福島大学</p> <p>学会発表にて、反応もあったので比較調査や追加調査も企図できたが、COVID-19により中断。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>おおよそ計画通りだが、COVID-19によって旅費を企画したものを、大容量データ分析向上用にソフトへの支出に切り替えた。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>今回の研究から、定量的分析手法を新たに獲得したので、その部分で2020年度からの弊学経済研究所研究所の研究プロジェクトの支援を獲得した。</p> <p style="text-align: right;">(本文は1ページ以内にまとめること)</p>			